

II 近代日本とアジア 4.軍部の台頭

e.二・二六事件

③相沢事件…皇道派将校相沢三郎が統制派のリーダー[1 永田鉄山]を刺殺

[1 1936] (昭和11)年2月26日早朝, [2 皇道] 派の青年将校らが約1400名の兵をひきいて首相官邸などを襲撃、政府要人を殺害、国会をふくむ国政の心臓部を4日間にわたって占拠する[3 2・26] 事件を起こした。一部容認論があったが、[4 天皇] 自身の指示で鎮圧され、指導者たちは軍法会議で処刑された。

この事件を受け、[5 岡田啓介] 内閣は総辞職、かわった[6 広田弘毅] 内閣は、[7 軍部大臣現役武官] 制など[8 軍] の要求を大幅に取り入れた。さらに、陸海軍による帝国国防方針の改定にもとづいて「[9 国策の基準]」を策定、北進論と[10 南進] 論を併記しつつ対外進出の方向を決定した。さらに、[11 ドイツ] と提携を強めてソ連に対抗し、国内では大規模な[12 軍備拡張] 計画がすすめられた。

④1936 [13 2・26] 事件…皇道派青年将校による[14 天皇親政] の国家樹立をめざす[15 クーデター]

→ [16 高橋是清] 蔵相・[17 斎藤実] 内大臣・渡辺錠太郎教育総監などを殺害。

→ 国会、首相官邸など永田町一帯を占拠

→ [18 天皇] の指示をうけ鎮圧 → 首謀者は軍法会議で処刑される

⑤[19 岡田啓介] 内閣崩壊 → [20 広田弘毅] (外務官僚出身) 内閣組閣

ア) [21 軍] の要求を受け入れる(閣僚の人選・軍部大臣現役武官制復活など) → 軍の介入が強まる

イ) [22 国策の基準] 決定 → 海外侵略の方向を確定

→ 大陸、南方のブロック化、そのための軍備拡張、[23 国内「改革」] 実施を表明

・[24 北進] 論…[25 シベリア] への進出、対[26 ソ] 戦を想定する[27 陸軍] 中心の考え

・[28 南進] 論…南洋諸島および[29 東南アジア] 進出をめざし、対[30 米英] 戦の準備をすすめる
[31 海軍] 中心の考え

ウ)「外交刷新」→ [32 ファシズム] 諸国との接近

1936[33 日独防共協定] 締結、翌年イタリアも加入＝三国枢軸結成

エ) 軍部のいっそうの政治改革要求と、軍拡に反対する政党の不满により、1937年総辞職

⑥宇垣一成陸軍大将による組閣が[34 陸軍] の反対により挫折＝軍の発言力の強化

→ 林銑十郎内閣成立 → 1937.6 第一次[35 近衛文磨] 内閣成立

5.第2次世界大戦

ドイツ …1933ヒトラー政権成立、国際連盟脱退 1935再軍備宣言

イタリア…1922ファシスト党政権成立 → 1935エチオピア侵略、国際連盟と対立(36脱退)

1936 スペイン内戦の発生 → ドイツ・イタリアはフランコ政権に協力、次第に接近する

1936 日独防共協定 → 1937日独伊三国防共協定を締結([36 枢軸] 陣営を形成)

1939.9.1 ドイツのポーランド侵攻により第二次世界大戦発生

a, 日中戦争

中国で[37 幣制]改革による経済的統一を進めることをきらった、関東軍は[38 華北分離]工作を本格化、1935年傀儡政権である[39 冀東防共自治委員会]を樹立、翌年には日本政府もこの動きを追認した。これに対し中国では[40 抗日救国]運動が高まり、同年12月には[41 西安]事件をきっかけに、国民政府は[42 共産党]の内戦を終結させ、[43 日本]への本格的な抗戦を決意した。(1937年9月には国民党と共産党が提携、[44 第二次国共合作]が実現する。)

[45 1937](昭和12)年[46 七月七日], 北京郊外で[47 盧溝橋]事件が発生、いったん現地で停戦協定が成立したが、[48 近衛文麿]内閣は軍部の圧力に屈して兵力を[49 増派], 全面戦争([50 日中]戦争)へと発展した。8月には、第二次[51 上海]事変が発生、日本は大軍を投入し、年末には国民政府の首都[52 南京]を占領した。なおこの前後、日本軍は市内外で略奪・暴行をくり返し婦女子をふくむ多数の一般住民および捕虜を殺害するという[53 南京]事件を起こした。国民政府は漢口から、さらに奥地の[54 重慶]にしろぞいてあくまで抗戦を続けたので戦争は泥沼化した。

1938年1月には近衛首相が「[55 日本国民政府を对手とせず]」と声明、国民政府との[56 交渉]の可能性を断ち切った。さらに近衛は、同年末、戦争の目的が日・満・華3国連帯による[57 東亜新秩序]建設にあるし、国民政府の要人[58 汪兆銘]を脱出させ、親日政府を[59 南京]に樹立した。しかし、この政権は弱体で効果を持たず、国民政府はいわゆる[60 援蒋ルート]を通じて[61 米英]などからの物資援助を受け、抗戦を続けた。

① 日本軍の中国侵略続く 1933年2月、熱河作戦＝華北への侵略開始→4月万里の長城をこえる

② 1933年5月 塘沽軍事停戦協定締結→[62 満州事変]停戦に

↓

軍部、以後も華北侵略をめざす→広田内閣、「[63 国策の基準]」で方針化
河北省・内モンゴルに傀儡政権樹立(冀東防共政府・徳王政府)

③ 中国での抗日救国運動の高まり、中国共産党による[64 ハー]宣言発表

→1936 [65 西安]事件→国共内戦の停止＝抗日民族統一戦線の方向へ

④ [66 1937]年7月7日[67 盧溝橋]事件勃発＝日中両軍の衝突事件

近衛内閣→現地での停戦協定成立にかかわらず兵力増派を決定

↓

⑤ [68 日中]戦争発生、軍部→軍事行動を拡大→12月南京占領([69 南京大虐殺]事件発生)

⑥ 1937年9月 国民党と共産党との協力体制成立＝[70 抗日民族統一]戦線成立(第二次国共合作)

↓

中国側の激しい抵抗(毛沢東「持久戦論」＝共産党軍など[71 民衆]と結合した[72 ゲリラ]戦展開)
アメリカ、イギリス、ソ連の支援

⑦ 日本軍の侵略の拡大＝中国全土へ、「[73 点と線]」の占領「泥沼化」の様相

1938 近衛「蒋介石の国民政府を对手とせず」の宣言

[74 東亜新秩序]建設宣言＝「欧米支配からのアジア解放、日満華三国連帯」を主張

1940 南京 [75 汪兆銘]のかいらい政権樹立